

東京双松会会報

発行 東京都新宿区西新宿7-16-6 森正ビル ㈱ハウジングエージェンシー内 東京双松会事務局
TEL:03-3361-4094 FAX:03-3361-6303 URL:http://www.tokyo-soshokai.org/
印刷 株式会社ハウジングエージェンシー

「捨石の自覚」

会長 石倉 義朗(第6期 昭和30年卒)

母校を双松という響きのなかで想うとき 少しでも背筋が伸びるような気がします。そんな伝統を誇りにして東京在住の先輩たちが 昭和28年 松江に先駆けて東京双松会を立ち上げられたと聞いています。故郷は遠くにありて想うものという時代背景もあったのでしょうか。

それから長い間 東京双松会は 設立当時の先輩の遺志を身近で継いだ木佐安允前副会長を軸に運営されてきました。ここで改めて木佐先輩の献身的な労に心から敬意を表したいと思います。ただ 時代の変遷にあって いつまでも個人の犠牲の上では 組織が空転し疲弊します。多様な価値観をもつ世代の会員を吸収しなければならない今日にいたって 気がつけば東京双松会は 閉塞感のただよう空気の中で「この指とまれ」とかけ声をかけるだけの存在になっていたように思います。こうした現状を敏感に感じ取った松高2期、北高2期などを中心とする会員の方々から 期せずして「なんとかしなければ」という声がうねりとなり まさに改革といってもいい新組織が生まれることになりました。それには 上村前会長の暖かい理解があり、また三島俊介役員が会のために事務所を開放してくださったことも大きなことでした。

果たして組織が動き出すと膨大な潜在会員の発掘、把握など基本的な事務管理から新会員の獲得、母校との連絡、新卒者の交流など活動は一気にひろがりました。また他の会から羨望されるほど素晴らしいホームページが福岡役員の手で生まれました。ただ 当初先頭を

きって獅子奮迅の働きをなさった前島事務局長が過労のためドクターストップとなったことは誠に残念であり胸の痛む出来事でした。しかし今は幸いにバトンを受けた泉事務局長のもとで変わらぬ精力的な役員会が行われ、この会報もそのなかで誕生することとなりました。



さて 最後に私の念願していることに触れておきたいと思います。来年は 役員会で懇請している北高1期の芦田昭充(商船三井会長)さんに会長をお引き受けいただくことと また東京双松会が「ノスタルジーを共有する懇親会」から一歩抜け出し 何か魅力的な「新たな体験のステージ」へ発想転換できないかということですが そしてもうひとつ 私の立場で出すぎたことですが 全国に点在する双松会を「全国双松会連絡協議会(仮称)」として体系付け 松江で定期的に共通の根本的な問題点を協議する場をつくるべきときではないかと考えます。以上 私は あくまでもそうしたことへの捨石であることを自覚しつつ限られた任期を全うしたいと思います。

平成21年度総会報告

昨年9月27日(日)午後、東京日比谷公園内「松本楼」にて第54回「東京双松会総会」が開催された。参加者は松江北高校長や同窓会本部会長などの来賓を含めて120名を超え、近來にない盛会となった。総会では一昨年来進めてきた組織建て直しの経過や会計の透明化について報告があった後、昨年1年間の活動報告があり、満場一致でこれを了承し、無事終了。引き続き恒例となった「部活動の思い出」は「陸上部」の登場。昭和33年松高卒の山田寧氏と同38年北高卒の吉儀宏氏に話をうかがった。山田さんは高校時代からジャンプ競技で活躍、大学時代は棒高跳びで国体優勝、その年、ユニバーシアード代表としてヨーロッパ遠征した話などをユーモアたっぷりに披露。また、順天堂大学教授(当時)の吉儀さんは陸連の要職にあり、松江出身選手の活躍ぶりや今後期待される郷土出身選手の紹介の後、箱根駅伝グッズなどを参加者にプ

レゼントし、大いに会場を盛り上げた。その後の宴会では、年次ごと、テーブルごとに話が盛り上がり、時間が経つのを忘れるうちに何時しか終宴時間となり、「赤山健児の歌」、「北高校歌」を斉唱しお開き、夫々2次会へと散会していった。

事前に名簿整理が行われたことや母校との連携で学生会員の参加もあり、盛大な総会となったが、この盛り上がり継続する事が大事であり、各期の幹事諸兄には引き続きご協力をお願いする。



38卒年組
を中心とする
「山脈浮かびて」
斉唱

松本楼余談

吉儀 宏(第14期 昭和38年卒)

定期的に案内のある在京同期の飲み会にはなるべく出席するようにしているが、本務以外にも分不相応な役職を引き受けているので、失礼することの方が多い。

そんな付き合いの悪さなので、東京双松会員になって50年近くになるのに、これまで一度も総会や懇親会に顔を出したことはなかったが、同期の仲間が会の盛り上げに尽力し始めたことは聞いていたし、出し物の「部活動の思い出」に今回は陸上部を取り上げると言うので、日比谷松本楼での集まりに参加した。

往年の名選手山田寧先輩の懐かしく面白い話の後では幾分話しづらかったが、持参した箱根駅伝グッズのプレゼントが効いたらしく、何とか座を持たせることが出来た。

その数週間後、箱根駅伝の予選会が立川であったが、母校で勤務先である我が順天堂大学は、数年前まで正月の本番で常に優勝を争っていたのに凋落著しく、まさかの予選会出場、そしてこの日よもやの予選落ち…。私は審判長として、競技会の無事終了を喜ばなければならない立場ながら、本部席でがっくりうなだれていた。

その時、混雑する人混みの中から二人のおじさんが私の前に歩み寄り、「北高の後輩です。先日松本楼での会に二人で参加し、先輩の話聞きながら、それぞれの母校を応援しようと言がまとまり、今日は揃って出掛けました。お逢い出来て良かった…」との突然の挨拶。驚くと共に何だか嬉しくなって、そこらにあったスポンサーからの差し入れを遠慮する彼らに持って帰って貰った。

52年前から始まった母校の本戦連続出場が途絶えた実に悔しい日ではあったが、二人の後輩によって、同窓・絆・出会い…日頃の忙しさでは感じなかった感傷も同時に味わう妙な一日であった。



吉儀宏 プロフィール：
順天堂大学名誉教授。
日本陸連理事、関東学生陸上競技連盟副会長。

寄稿

— 長谷川 いずみ(第37期 昭和61年卒) —

北高に入学してすぐの実力テストは、実施をすっかり忘れていたので文字通りの実力テストとなった。不得意な英語は後ろから3番目という予想通り(?)の結果に。英語はとにかく不得意なのに、好きなのはハリウッド映画。映画雑誌を読んでは「ハリウッドかあ。火星より遠いがね」と思っていたものだ。2年生の時だろうか、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』にハマり、主演のマイケル・J・フォックスにファンレターを出そうと考えた。でも、英語は超苦手。自分で書いた悲惨な英文を学年で英語が1番の友人に書き直してもらってエメールしてみた。すると、サイン入りの写真が送られてきた。火星よりは近くなったハリウッドだけど、松江からはやっぱり「遠い異国」だった。

そんな私が今や、ロサンゼルスに住み、毎日のように映画スターに“英語”でインタビューしている。先日も、レオナルド・ディカプリオ、ジュリア・ロバーツ、ジョニー・デップに取材した。そして、ワーナーブラザーズ映画や20世紀フォックス映画のスタジオも自分の庭のような状態になった。ドラマ『24-TWENTY FOUR』の

日本公式記者として公式ガイドブックも出版した。

25年前、「夢のまた夢だわね」と思っていたことを少しずつ実現している。「渡米前から英語ができたんですか?」と聞かれて、「いやあ、高校時代、英語は赤点でした。ガハハハ」と答える度に、同じような境遇でもがいている後輩がいるのでは……と考える。Hollywood News Wireでのインターン体験プログラムなんてものを北高後輩たちに開こうかと考える今日この頃だ。



長谷川いずみ プロフィール:

法政大学卒業後、NHK松江放送局、FM石川などのアナウンサーを経験後、99年渡米。フリーの映画&海外ドラマ記者を経て、エンタメ専門通信社HollywoodNewsWire.netを立ち上げる。第51回南カリフォルニア・ジャーナリスト賞批評家・コラムニスト賞受賞。 izumi@hollywoodnewswire.net

ふるさと巡りIN東京

松江和菓子伝統の技と彩雲堂

松江の和菓子は、七代目藩主松平治郷(不味公)が江戸の茶の湯文化を持ち帰り、松江で開花させた不味流とともに発展したことはよく知られており、今では京都、金沢と並ぶ三大和菓子処とされています。

「若草」や「山川」などは茶会用として特に有名ですが、これらの和菓子は明治維新を機に一度途絶えていたものを、松江の和菓子職人たちが大変な苦勞の末に蘇らせたものだそうです。現在、松江が和菓子処として全国に知られているのは、職人さんたちのこうした努力のたまものであり、伝統の技はお菓子の世界を超越して、まさに工芸品とも言える芸術の域に達しています。

その熟練職人の高度な技と美意識を活かして、オリジナル和菓子の新ブランド「彩雲～saiun～」を立ち上げ東京進出を果たしたのが、老舗のひとつである彩雲堂さんです。新ブランドは、結婚式や誕生日・七五三などのイベント用のオーダーメイド和菓子です。東京オフィス

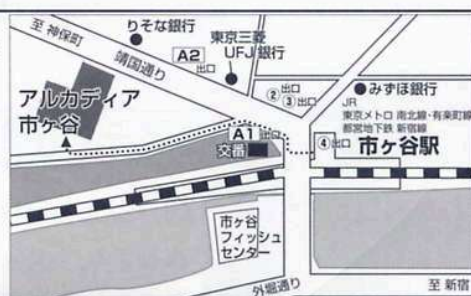
を預かっているのは田中斉子さん(旧姓山口:平成10年卒)で、彩雲堂会長山口研二氏(昭和40年卒)のお嬢さんです。また田中さんの兄で取締役の山口周平氏(平成5年卒)も我が同窓です。松江伝統の技と味が、不味流のふる里である東京で大きな花を咲かせるよう、みんなで応援したいものです。



彩雲堂東京オフィス
中央区日本橋1-2-10 東洋ビル
TEL.03-3231-7160

—平成22年度 総会開催のご案内—

1. 日時 / 平成22年11月7日(日) 12:00~15:30
2. 会場 / アルカディア市ヶ谷(私学会館)
東京都千代田区九段北4-2-25
TEL.03-3261-9921(代表)
3. 会費 / 8,000円(学生無料)
4. 申込切 / 平成22年10月15日(金)



新役員紹介(卒業年次)

会長	石倉義朗(昭和30年)		
副会長	原靖雄(昭和33年)		
監事	島村武宜(昭和38年)		
事務局	泉宏佳(昭和38年)	田中稔(昭和40年)	宮城由美子(昭和53年)
総会担当	小林茂光(昭和30年)	大原正俊(昭和36年)	羽田昭彦(昭和51年)
	梅谷仁(昭和53年)		
組織担当	三島俊介(昭和38年)	中村康一(昭和40年)	長谷川隆義(昭和40年)
HP担当	福間三郎(昭和32年)		
会計担当	前島紀夫(昭和38年)		

編集後記

会を活性化の一助として、独自の会報を発行しようという話が役員会でまとまった。寄稿していただいた方々、役員各位の協力に感謝したい。今後も年に1~2回の発行を計画しているので、会員からの積極的な寄稿を期待しています。会のホームページ(<http://www.tokyo-soshokai.org/>)も充実しているので、是非アクセスしていただきたい。(T.M)